序章はじめ

治」には、お寺の所在が明確に書かれているが、その数は非常に多いけれども、それほど沿道に位置しているよ うには思えない。 また、江戸時代後期 1797年寛政9年(明治維新の71年前)の 伊勢路見取絵図 第二巻 小俣・山田・宇 われる 寛永20年 伊勢市史に記載されている。しかしながら、伊勢山田郷の最古の地図と言われる1643年頃作成されたと思 寺は、明治2年 歴史上、初めての天皇神宮参拝に合わて、行幸沿道のお寺が立ち退かされたと平成24年版 に記憶しているが、2019年現在でも、お寺の数はそれほど少ないようには思われない。しかも廃寺になったお 伊勢には昔、お寺が多かったが、明治の時代になってその多くが廃寺されたということが通説となっていたよう 山田惣絵図」には、参詣のための沿道と思われるような場所に寺の記載がほとんどない。

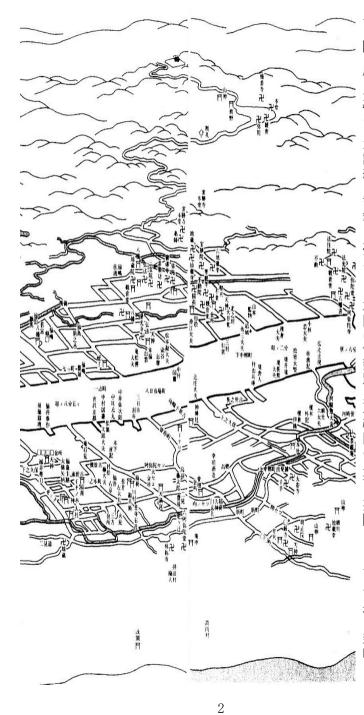
1

康の側室が建立したものもある。 従って、次の疑問を抱いたので調査してみた。 であったし、 寺になったお寺は、神宮の祭主や禰宜が建立したものが多かったという。なるほど、明治以前は神仏混合状態 また、伊勢市立図書館主催のフィールドワークで図書館前の等観寺を訪れた時のご住職の話では、明治に廃 必ずしも寺院は僧侶だけが建立するものではないかも知れない。梅香寺や清雲院のように徳川家

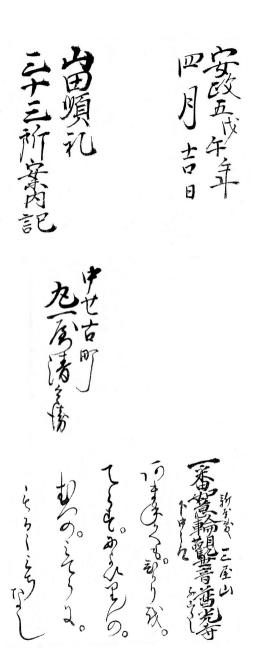
①伊勢の寺は、明治2年の天皇神宮参拝合わせて、行幸沿道にある寺が廃寺または移転させられたのか?

②廃寺された寺は神官が建立した寺が優先的だったのか?

の沿道のみならず、河崎周辺や大湊、二見、朝熊に至るまでまで、所在地が明確になるほどに、神社、 寺、院、庵、堂」などが詳細に記載されている。左図は伊勢路見取絵図の 資料として、1797寛政9年 伊勢路見取絵図 第二巻 小俣・山田・宇治」には、伊勢の宮川から宇治まで 一部、蓮隋山~八日市場~新町。 御師邸、



勢路見取絵図には記載がない寺院のうち、宇治山田市史の明治初年廃寺リストには記載がある寺もあり、伊 勢路見取絵図は必ずしも全ての寺院が網羅されているとは限らないようだ。その番順は巡礼順序と思われる。 しかしながら、郷土史研究家の飯田良樹氏提供の1855安政5年の 田順礼 三十三所案内記」には、伊



的にその推移を記載している。これらを総合して検討した。 一方、昭和4年発行の宇治山田市史」第九 寺院編、第 一章 総説、第二章 廃寺、第三章 現在寺院は総括

田順礼 三十三所案内記 安政五戌午年四月吉日 中世古町 丸 一屋清兵衛

番 三屋山 普光寺 下中之郷新屋敷 如意輪観世音

二番 養龍山 大安寺 上新町 千手観世音

三番 金蔵庵(金蔵寺) 堤世古 十二面観世音

四番 大覚山 正法寺 二俣 七観世音

五番 茲光院 辻之町 正観世音

六番 久留山 威勝寺 太師堂左り○庵となり端じ

七番 松景山 守栄寺 浦口山名 正観世音

八番 利生山 法住院(法充院とも)浦口山名 十二面観世音

九番 仙翁寺 西世古 地義堂合廠 如意庵 如意輪観世音

十番 妙貞庵 中川原 十二面観世音

十一番 観音山 梅光寺 蓮隋 蓮〇谷 千手観世音

十二番 敬王山 三宝寺 八日市場 坂之世古 千手観世音

十三番 鼓岳山 蓮台寺 向山 十二面観世音

十四番 慶宝寺 世義寺内 十二面観世音

十五番 亀居山 南之坊 世義寺内 十二面観世音

十六番 宝蔵寺 日和 正天堂保左の方 千手観世音

−七番 積宝寺 日和 八十八ヶ○○の南

十八番 神明山 不動院 下中之郷 十一面観世音

十九番 法楽舎 世義寺内 如意輪観世音

廿 番 高日山 常明寺 十一面観音

廿一番 恵命山 大泉寺 河崎西し口 馬頭観音

廿二番 妙華山 願成寺 船江町 十一面観音

廿三番 音潮寺 今は西迎院 付帯本堂○○ 同(船江町?) 新〇村 正観世音

廿四番 向陽軒 越坂 〇〇〇堂 十二面観音

廿五番 常光寺 当時、極楽寺地蔵合堂 越坂 赤玉 正観世音

廿六番 |天機院 | 同所(越坂 赤玉?) 如意輪観音

廿七番 浄間寺 越坂 〇〇寺隣 正観世音

廿八番 欣求山 西迎院 越坂 〇〇たり地蔵合堂 千手観世音

廿九番 | 欣浄寺 | ○○院という 越坂 十二面観世音

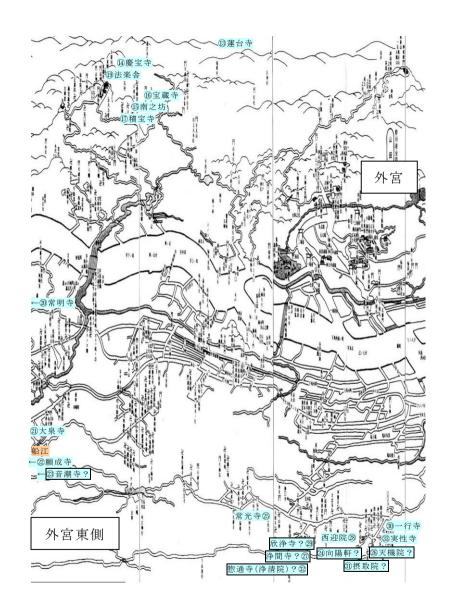
三十番 念仏山 二行寺 越坂 正観世音

三一番 引接山 摂取院 越坂 正観音

三二番 惣通寺 越坂 十一面観世音

三三番 真龍山 実性寺 越坂 十二面観世音

伊勢路見取絵図」に記載がない寺。これら33ヶ寺の所在は以下の地図の通りである。





ĺ

この た。10~12世紀にかけて建立されたのは、例えば、 代を経ると、貴族や、神官」が自分の信仰のために、蓮台寺のような寺院を建立することがひとつの流行となっ 寺を嫌避するという思想が台頭して、朝廷から神宮のための宮寺建立を命ぜられることはなかった。さらに時 道場をいう。その後、仏教の内容が弥々明らかになると同時に、神道の自覚が付いてきたので、稀に関係深い仏 神領の地に寺院が建立された経緯としては、奈良期(西暦700年代)には 大神宮寺」が創建されたという。 大神宮寺」とは、神仏混淆の初歩として、我が国の神祇を仏教中の天部などど同列にみて。法楽を奉る

田宮寺 (田宮寺村) 内宮長官 荒木田氏長 長徳年中 西暦995~9頃

(大野木村) 祭主 大中臣輔親 不詳 のち慶宝寺 明治2還俗

輔親は長保元年宮司となり在任3年であったので1003年頃か?

大覚寺 (記載なし) 宮司 大中臣千枝 輔親と同期なので1003年頃か?

法泉寺 蓮台寺 (所在 前山) 祭主 大中臣永頼 長徳年中 (小社村) 伝、内宮長官 荒木田氏人 不詳あるいは田宮寺と同期か? 明治元廃寺

西暦995~9頃

明治2廃寺

鼓岳山 (不詳 あるいは伝、世義寺境内) 祭主 大中臣親定

親定は寛治5年祭主となり在任32年であったので、 1087~94頃か?

天覚寺 (二見郷江村) 内宮長官 荒木田成長 不詳

成長は治承3年長官となり在任15年であったので、 1177~81年頃か ?

勿論、仏僧が建立した寺もある。

弘正寺 (楠部町) 明治初廃寺

南都仏教・真言律宗の寺院で、伊勢神宮の本地仏(神の正体とされる仏)を奉斎した。

乾元2年)の請願で認められた関東(注)御祈祷所34寺の一つと言われている(HP神殿大観より)ので、 寺長老三世)が住職となった。もと興正寺と称した。1298永仁6年に忍性(1217建保5年~1303 西大寺叡尊(1201建仁元年~1290正応3年興正菩薩))が中興し、その高弟宣瑜(後の奈良西大

建立はそれ以前と思われる。跡碑は伊勢市楠部町乙581にある。







9

3·4m)であり、南北朝時代末から室町時代初期の形態的特徴をよく残している 大五輪の五輪塔」があ 現在、楠部町字大五輪115には、1596~1615慶長年間以前の古塔としては三重県下最大(高さ

る。宇治山田合戦の供養碑など伝説は多いが、この地が弘正寺の所有跡地であったため、西大寺の律宗石 工集団による 叡尊五輪塔」(墓塔)との関連性が、近年の研究では提起されている。(HP伊勢市より)

置されていたが、これら三関よりも東側を指していた。 (注)この頃の関東」は東山道の不破関、東海道の鈴鹿関、北陸道の愛発関、の3つの大きな関所(三関)を設

宮が再興されたのも神宮と寺院が密接な関係があったことに他ならない。16世紀前半の頃である。 しませること。)し、やがて いる。そのような状態で、内宮域内に仏像を安置して法楽(経を読んだり、楽を奏し舞をまったりして神仏を楽 維持を図ったことがあった。その後、戦国時代には120年にわたり式年遷宮も行われないような状態に陥って 鎌倉時代から室町になると、武士が台頭し、神宮の領地が奪われるようになり、僧侶の力を借りて、神宮 大日坊」と改称して寺院の体裁をなすものもあった。また、慶光院によって式年遷

第二章 江戸時代

方法として 宗門改め」(戸籍制度)という政策の実行によって寺院の勢いが増した。 繁栄をもたらした。さらに1612~3慶長17~8年のキリシタン禁止令により、 徳川時代になると天下泰平の世となり、宇治山田も発展するとともに人口が増加したことによって、寺院の 1624~寛永以後の取締

1643寛永20年上両郷 (宇治二郷のみ)宗門改帳によると、寺数は合計57ヶ寺

浦田町 禅宗6、真言宗6、計12ヶ寺

今在家町 禅宗11中之切町 禅宗25、真言宗6、

計 3 1

下館町 禅宗3

1666寛文6年山田三方会合記録 (山田十二郷のみ)によると、

中島小川町5

辻久留町8

二俣町16

浦 口町13

上中之郷町(常盤町)27

下中之郷町26

八日市場49

大世古町11

曽袮町20

一之木町2

一志久保町7

宮後西河原町34

田中中世古町(本町)7

下馬所前野町 (豊川町)10

岩淵町48

町 1 0

吹上町2 一 町 1 6

河崎町•神田久志本村22

妙見町 (尾上町) 6

川原 (宮川町)1

妙寺門前(倭町)1

1670寛文10年の大火では上中之郷より小田橋まで延焼したが、類焼した寺院は合計227ヶ寺であった。 下中之郷町20ヶ寺

八日市場町9

曽袮町19

大世古町・一之木町41

一志久保町2

宮後西河原町38

田中中世古町(本町)9

下馬所前野町 (豊川町)12

岩淵町・吹上町・岡本町56

その他尼寺21ヶ寺

これらの数は正確とは思えないが、 江戸初期には伊勢神宮の門前町宇治山田には多くの寺院が存在していた

ことに間違いはない。

神域に寺院があるのは神祇に畏れ多いとし、 『域に寺院があるのは神祇に畏れ多いとし、幕府の許可を得て、過去40年以内に創建した寺院や寺号ないしかしながら、この時、山田奉行だった桑山丹後守貞政(在任1666寛文6年~1684天和4年)は、神宮

仏舎は取り壊すように命じている。

残った寺院には、

一之木・宮後・船江・各町領の越坂キネーセカや、岩淵町領の前

田

河崎町領の中寺町、

岡本町

14

二、他所に移転したものもあった。諸例綱目集成には寺院名が掲載されているが、ここではその数だけを記載す 領の向山などに、任意に移転するように命じた。これによって各焼失寺院は指定された土地に移転したが、

一之木町領越坂に移転した寺35ヶ寺

宮後町領越坂に移転した寺43

船江町領越坂に移転した寺17

河崎町領中寺町に移転した寺23

岡本町領向山に移転した寺6岩淵町領前田に移転した寺11

河崎 町に1ヶ寺、妙見山に1、妙見町に1,白子園に3、度会郡神田領桜辻に2、 同郡前 山に1ヶ寺が

移転した。

十二郷内の寺数は合計328ヶ寺となった。その宗派別寺院数は次の通りである。 に移転を命じられた。この時に廃寺にされた寺は47ヶ寺であった。従って、 また、外宮の神苑西方にあった世義寺は類焼はしなかったが、宮域の防火のため、岡本町 1 6 6 8 1703元禄年間、 領滝浪山(現在地) 山田

浄土宗156

(臨済)禅宗95

真言宗68

天台宗8

時 宗 1

ろう。それに加えて、僧侶の風紀の乱れが増長されたこともあって、寛文の大火以後も機会ある毎に寺院を整 理しようとしたと思われる。 古来、宇治山田では寺の創建に関する規程がなかったために、このような数に増えてしまったということなのだ

また、寺院はどのような支配を受けていたかというと、

②会合年寄の支配に属していた。例えば、宇治二郷年寄会合の宇治中之切 ①神宮家の支配に属していた。例えば、内宮薗田家が支配していた宇治浦田町の建国寺の如くである。 法楽舎の如くである。

③町内に属したもの。例えば、河崎町内の大泉寺の如くである。

④大寺と末寺的関係になったもの。例えば法楽舎の支配を受けていた宇治浦 田町の普門院の如くである。

人の支配下にあったもの。例えば、河崎の木造家の支配下にあった願正寺の如きである。

の身体、寺領の諸什器の取締等に関与した。支配人は現在の檀家総代のような者である。 支配というのは、寛政年間に差配と称するように改められたが、その権利は、寺院の存廃、 堂宇の修 住僧

院が優先的に廃寺されたという検証は出来なかった。 ただし、これらの区別が付くような資料を見出だせなかったので、当初の目的であった、神宮神官が建立した寺

1855安政2年11月の山田の取り調べでは、

浄土宗77

禅宗26

真言宗14

天台宗2

合計120ヶ寺となっている。宇治の資料はないけれど、20ヶ寺前後に激減したものという。従って、この頃の宇 田の総計は140ヶ寺前後であったと思われる。

弗三章 明治時代

まで神葬祭をしなければならなくなった。 1日に遡って適用されたので、明治元年は閏4月がある13か月間、383日間あった。)には神職は家族に至る 神前に鰐口を掲げることが禁止された。閏4月(慶応4年をもって明治元年とする」としているため旧暦1月 し、菩薩や権現などの文字を神号とすることを禁じられた。同年4月には、寺に神を祭り、神仏を同祭したり、 明治時代になると諸事について大改革が行われたが、宗教に関しては、1868明治元年3月に、神仏を混同

でも神葬祭のための葬祭場は、祖霊舎」があるけれど、お寺の檀家も多いように思われる。 一般庶民については、多分、数割程度の家が神道に改宗し、 神葬祭が適用されたのではないか。 現在

領・堂宇・什器等を無償で下げ渡すということを奨励したので、廃寺に及んだものが109ヶ寺になった。 宗門改めや検死によって収入を得ていた寺院の財政は減少してしまった。一方、還俗する者に対しては、その寺 これらのことは寺院の(強制的)廃止につながると考えた寺僧は還俗する者が現れ始めた。11月に度会府よ 人民の神葬祭願出を許可し、宗門改めなどはその町の年寄が管理しても良い事となったので、 、今まで

を申し付けられた者は50余人に及んだ。 同2年正月の廃寺の中で、還俗届けを町年寄に提出したことで、寺院や寺領の田畑を下賜され、仮府兵格 しかし、この仮府兵格という特権も翌3年10月に廃止され、 平御

師と同様の扱いになった。

これを寛文・元禄の時と比較したら、ほぼ20分の1にも至らなくなってしまった。 存したのは、50余ヶ寺の内、廃寺あるいは合併したものが37ヶ寺に及んで、残るはわずかに15ヶ寺となった。 して有之間敷候」と布令したので寺院の収入は次第に減少し維持は益々困難となってきたので、明治2年に残 は却で仏参等致間敷筈に付、寺院大般若・施餓鬼等〈参詣致し、或いは法会の配符を請い施入等致候儀、決 従前の通り、その町役人に支配されることとなり、同5年9月 一般人に対して 神葬祭に相成、宗旨除名の上 また、残存の寺院に関しては明治元年に特別に定められた寺院取締法にて管理していたが、同4年2月より、

この頃の出来事は、

明治2年3月12~13日(太陽暦4月23~4日 明治元年 王政復古 明治政府樹立 神仏分離令発布 (1868慶応4年3月~ 神仏分離令発布後、約1年後) 1868明治 元年

明治天皇 陸路にて東京〈行幸中、伊勢神宮を天皇として初めて参拝

明治3年 祭政 一致の大教宣布

結果として、廃仏毀釈運動が盛んになり、その勢いは明治4年前後まで続いた。

元年あるいは2年に廃寺しているが、 という歴史があるけれど、宇治山 田市史に記載の廃寺リストの多くは明治元年の神仏分離令発布後の明治 明治2年の明治天皇参拝に合わせ、 急遽、 実行されたものであろうか

伊勢市史によると、(7)明治2年天皇神宮参拝 (平成24年伊勢市史より抜粋)

0歳以上について10月に養老典を実施した。 害火災の被害者などに対して賜金した。この東幸での賞典を広く拡大する政府の意向を受けて、度会府では8 し、10月13日に東京に着輦した。政府は行幸沿道の府県については70歳以上の者や孝子義僕、その他水 明治新政府は東国情勢安定のため、天皇の東京行幸を実施した。明治元年9月20日に京都を発輦はつれん

天皇の京都還幸は12月8日に東京発輦、同22日京都着輦という日程であった。

伊勢神宮を参拝する予定があったが、25日に孝明天皇祭を控えており、日程上の都合から延期となった。 結局天皇の神宮参拝は翌2年3月の東京再幸時に実施された。 当初東京からの還幸は海路が予定されたが、艦船の準備が整わずに陸路をとることになった。途中、天皇は

19

奉迎にあたって準備するべき事柄を市中および村々に達した。 れていたが、さらに2月になって車寄や、湯殿その他の工事を改めて行うことになった。 となる外宮文殿、内宮文殿の修繕を行った。前年冬に行幸が予定されていたから、それ以前から修繕は進めら 殊二追々農事繁多ノ時ニ趣キ候ハ、人夫使役等別テ心ヲ用ヒ、無益ノ設致間敷」と、過剰な奉迎準備をせず 輦が発表され、さらに行政官は沿道府藩へ 御道筋府藩県トモ諸事簡易ノ御趣意ヲ奉戴、諸事取扱可致侯。 人足などの使役に配慮するよう求めた。しかし天皇を迎えるという稀有な経験に際して、度会府では行在所 1月27日、3月上旬に天皇が伊勢神宮を参拝する旨、行政官は布告した。2月になると翌月7日に京都 2月12日、度会府は

町(村)境には町(村)名を記した棒杭を建てること、

家名を記した木札を家ごとに掛けること、

屋根・庇・瓦が落下しないよう竹箕で囲うこと、

往来から見える世古小路は囲うこと、

参道や門前にある常夜灯は転倒防止のため丸太で抱え結び、願主や師職などの名前が見えないようにす

といった内容であった。

仏書仏具等の商売を禁じた。 さらに度会府は行幸に際して、 神領中の 参道」にある仏閣仏像などは取払い 宇治·山 . 田の 々における

敷いて着座平伏、透かし見等は禁止する、服喪中の者、月経中の女性は行列の拝見は憚るべきこと、天皇の伊 供奉の者で不心得の者があれば、その筋へ申出ること、などと指示した。 閉じて、梵鐘鳴物は禁止する、御通輦筋の師職の標札や商人の看板など、人名が入っているものは下ろすこと、 勢滞在中の3日間、職人や商人は通常通りの渡世を致すべきこと、神宮近傍 一里半四方にある寺院は門戸を はみだりに徘徊することは遠慮すべきであり、僧尼山伏法体の輩の徘徊は禁止する、行列の拝見は土上に筵を また、直前の3月になると奉迎にあたっての詳細な注意事項を府は達している。ここでは行幸当日、市中雑人

はいって、寺院は門扉を閉じるという対応に変化しているが、たとえば津藩では門扉を閉じる指示が出されたの は行幸沿道のみであり、仏教色や穢れについて、度会府は他地域よりも神経質になっていたといえる。 寺院は、早速、本山の知恩院を介して太政官へ嘆願すると、存続が認められることになった。そのためか3月に しかし2月当初、府が参道寺院破却を命じたことは、寺院側に動揺を招くものであった。困惑した浄土宗の

・山田地域ではすでに元年11月の段階で神仏分離や廃仏毀釈がかなり進んでいたが、

3月の間に廃寺のピークを迎えた。 度会府は奉迎準備に際して、 神領では仏教を不要とする方針から強く廃寺を促し、その結果元年末から2年 (牟禮仁 度会府下における神仏分離と廃仏毀釈」)。

は内宮を出立、松坂を経て津に到着した。 潔斎の上、内宮に向けて発輦した。同日中に内宮を参拝し、その日の行在所は内宮文殿であった。翌13日に 藤堂高邦が先駆して外宮文殿に着御した。翌12日に天皇は外宮を参拝し、外宮文殿に還御して昼餐をおえ、 いたという。宮川東岸で宮司 河辺教長が大麻を奉り、御祓の後、知事 橋本と判事 元田が奉迎、久居藩主 俣村の岡村氏宅で小憩、葱華輦モーラゕれんに乗り換えて宮川を越えた。宮川の西河原には拝観人が大勢集まって 3月7日、 天皇は京都を発輦し、8日水口泊、9日関泊、10日は松坂泊であった。11日は斎宮村を経て小

21

たのではないか?古来、宮川を超えると宮川沿いの京町を通過し、 2年作成の らは、古来と同様で、 〈至る道が整備されていて、ショートカットにもなるため、その経路が使われたではないかと想像した。筋向橋か して筋向橋に至るのが 平24伊勢市史にはこのように記載されている。そこで明確な資料はないけれど、改めてこの時の参道を、明治 度会明細図」で確定すると、小俣から桜の渡しで宮川を渡り、宮川町から直接、筋向橋を目指 上下中之郷町、 一般的ではなかったかとは考えるけれども、明治2年頃は既に宮川町から直接、筋向橋 八日市場町、 一志町、宮後町、 中島町、辻久留町、二俣町、浦口町を経由 館町を経て 一の鳥居に達し、 外宮を参

22

を経て内宮参道に入る。内宮参道は、中之切町、今在家町を通過して宇治橋を渡る。明治2年頃は宇治橋を えている。 渡った館町にはまだ人家が多く残っていて神苑は整備されていなかった。その中を通過して内宮を参拝したと考 拝する。その後は、岡本町から小田の橋を通過し、尾上町、古市町、倭町、古市町、中之町、桜木町、浦田町

2廃寺)、 かったはずで廃寺する理由には当たらない。 た所にあったけれど、門扉が参道に面していた可能性がある寺を列挙するが、これらも門扉を閉ざすだけで良 寺に過ぎず、天皇の参拝によって沿道の廃寺が進んだとは考え難い。 この参道に沿ってある寺は、宮川町の妙貞院(明治2廃寺)、中之町の寂照寺(現存)、桜木町の地蔵院 中之切町の慶光院(明治5還俗)しているので、明治元・2年に廃寺した104ヶ寺のうち、これら2ヶ 少し範囲を広げて、参道から少し奥まつ

大蓮寺 浦口町字堤世古 明治2廃寺

宝蔵寺 常盤町櫓下 明治2廃寺

光照寺 浦口町字新屋敷 明治2還俗

西福寺 常盤町字櫓下 明治2還俗

慈眼寺 常盤町字櫓下 明治2廃寺

阿彌陀寺 常盤町 明治2還俗

不動院 真言宗 下中之郷町字新屋敷 明治2還俗

反面、 当てはまらない。 同様の事例としての尾上町の寿巌院・青雲院・高源寺、 中之町の大林寺などは現存していて、これもまた

第四章 宗派の概要

要する。 神都宇治山田の寺は、 Wikipediaより) 浄土宗 (時宗)、 真言宗、 臨済宗、 (天台宗)で占められているので、 各宗派について概

浄土宗

大乗仏教の宗派のひとつ 鎌倉時代

(宗祖) 法然

(本尊) 阿弥陀如来

(教義) 浄土信仰に基づく専修念仏を中心とする。

(別称) 浄土専念宗·浄土真宗 (真宗)とも 親鸞を開祖とする浄土真宗とは別。

解説:浄土(真)宗•真宗

たのち戦後は真宗10派のうち本願寺派が その門弟たちが教団として発展させた。古くは「一向宗」・門徒宗」などと俗称され、宗名問題を経 である法然によって明らかにされた浄土往生を説く真実の教えを継承し展開させる。親鸞の没後に 浄土真宗は、浄土信仰に基づく日本仏教の宗旨である。鎌倉時代初期の僧である親鸞が、その師 浄土真宗」、他9派が 真宗」を公称とする。

時宗

浄土教の一宗派 鎌倉末期

(開祖) 一遍。

(総本山)神奈川県藤沢市の清浄光寺 (通称遊行寺)。

真言宗

大乗仏教の宗派のひとつ 平安初期

(宗祖)空海(弘法大師)

(教義)密教を基盤としている

(総本山)教王護国寺(東寺真言宗総本山)

臨済(禅)宗

日本禅宗(臨済宗・曹洞宗・日本達磨宗・黄檗宗・普化宗)のひとつ鎌倉時代。

(中興の祖) 江戸時代、白隠禅師が臨済宗を再建 妙心寺派と大徳寺派がある。

(教義)中国禅宗を基盤とした

天台宗

大乗仏教の宗派のひとつ 平安初期

(宗祖) 天台教学は中国に発祥し、最澄(伝教大師)によって伝来

(教義)蓮華経(法華経)が根本経典

(別称) 天台法華宗

に多くの禅宗寺院の廃寺記載があるが、伊勢路見取絵図にはそれらがほとんど見られない。従って、宇治 市史の宇治周辺の廃寺の記載は、1797寛政9以前の状況を記述しているように考えられるが? 勢路見取絵図 第2巻の内、山田・宇治」に記載の寺院とに大きな差がある。例えば、宇治山田市史では宇治 以下の記述は宇治山田市史を(宮川から宇治へ地域別)記載順をそのまま転載したが、寛政9年1797 山田

中には、 羅しているとも言い切れない。これらの資料を総合して分類した。 |方、郷土史研究家 飯田良樹氏提供の 安政五年 山田順礼 三十三所案内記」に記載されている寺院の 伊勢路見取絵図」に記載されてないものも少なからず散見されるため、 同絵図が必ずしも全てを網

第五章 時期不明ぁるいは明治以前に廃寺になった寺宗派 所在 廃寺時期

大日寺 真言宗 尾部坂常明寺そば ↓威勝寺そば 六十六部納経所の --つ。

龍華院 浄土宗 辻久留 町 1595文禄3 僧融真開 Ш

随念寺 禅宗 正法寺内 1655明暦元 僧隨念開山

法性寺 流川地蔵 浄土宗 二俣町字田原

法光院 天台宗 浦口 町山名 法住院内 1723享保8 法住院に合併 寛永8 僧祐伝開山

寿命院 天台宗 口町 山名 法住院内 1760宝暦1 ①法住院に合併

慶運庵 浄土宗 町 650慶安3 僧慶運開山

周慶庵 浄土宗 口町

観音寺 真言宗

慶昌院 浄土宗 1588天正16 僧慶生開山

仙翁寺 禅宗 常盤 町字西世古 1574天正2 中西平左衛門 Ш 山 田順 礼に記載あり

普光寺 真言宗 中之郷字新屋敷・・・山田順礼に記載あり

善導寺 浄土宗 八日市場町字坂世古

真言宗 八日市場町

(茲) 光院 八日市場町字為田 Щ [田順礼 に記載 あり

声明院 西光院 浄土宗 浄土宗 一之木町字越坂 一之木町 ↓ 一之木町字越坂

源福寺 一之木町 ↓一之木町字越坂

安養軒 称名庵 下三郷↓ 下三郷 ↓ 一之木町字越坂 一之木町字越坂

閑松 (照)寺 田中中世古町 ↓ 一之木町字越坂

利典院 (庵) 宮後町西河原町 ↓ 一之木町字越坂

長渓院 一之木町 ↓ 一之木町字越坂一之木町 ↓ 一之木町字越坂

清露院

等雄院 一之木町字越坂

歓正庵 一之木町字越坂 西迎院内

法光庵 曽祢町↓一之木町字越坂

戒香院 一之木町字越坂

十王堂 一之木町字越坂 励清寺内 1748延享5

聖福院 中之郷 一之木町字越坂 1727享保12

般舟庵 -中之郷 之木町字越坂 1718享保3

徳寿庵 中之郷 一之木町字越坂 一之木町字越坂

曽袮

1748寛延1

27

恵恩院 -中之郷 一之木町字越坂 1790寛政2

是心庵 一之木町字越坂 1748寛延1

入林院 一之木町字越坂 1746延享3

浄泉軒 一之木 小町字越坂 1748寛延1

久安庵 一之木町字越坂

文広院 一之木町字越坂 $\begin{array}{c} 1\\7\\4\\6\end{array}$ 延享3

周 (門と言)庵 一之木町字越坂

妙法寺 一之木町字越坂1745 延享2

地蔵堂 一之木町字越坂 1721享保6

妙天院 一之木町字越坂

常楽坊 日市場↓宮後町字越坂

大信寺 土宗 下中之郷町↓宮後町字越坂

善称寺 浄土宗 宮後町西河原町↓宮後町字越坂

梅里軒 日市場町↓宮後町字越坂

明鏡寺 浄運庵 浄土宗 宮後町西河原町 宮後町西河原町↓宮後町字越坂

↓宮後町字越坂

香輪寺 宮後町西河原町 ↓宮後町字越坂

玉池庵 宮後 町西河原町 ↓宮後町字越坂

常光寺 宮後町字越坂

意松軒 浄土宗 宮後町西河原町 ↓宮後町字越坂

等(恵)雲軒 宮後町西河原町↓宮後町字越坂

泉岳院 真言宗 宮後町字越坂

高乾庵 下中之郷町↓宮後町字越坂

大西坊 宮後町字越坂 1730享保15

来迎寺 宮後町字越坂 1767明和4

法泉庵

宮後

町字越坂

1790寛政2

喜慶庵 宮後 町字越坂 1730享保15

大久庵 宮後 町字越坂 748寛延1

久昌庵 宮後 町西河原町 ↓宮後町字越坂 1772明和

保祐庵 宮後 町西河 原 ↓宮後町字越坂

良裁庵 宮後 町西河原町 ↓宮後町字越坂 三章軒

宮後

町西河原

↓宮後町字越坂

43寛保3

9

浄仙庵 町字越坂 1721享保6

盛林庵 宮後 町字越坂 1790寛政2

田中中世 ↓宮後町字越坂 1738元文3

Ŧī 一志久 ↓宮後町字越坂

大聖寺 一志久保町 ↓宮後町字越坂

如 泉庵 一志久保町 ↓宮後町字越坂 1780安永9

恵雲院 宮後町西河原町 ↓宮後町字越坂 1751寛延4

香樹院 宮後町西河原町 ↓宮後町字越坂 1745延享2

月光院 宮後町

五大院 真言宗 岩淵町字前田

福寿院 岩淵町字前田 1729享保14

東漸庵 禅宗 岩淵町字前田 1558~永禄頃 悟渓了禅 師開 山

易玉院 岩淵 町字前田

聖寿寺

浄土宗 松木町

↓岩淵町字前

田

中興喜翁慶禅師

大休庵 禅宗 岩淵町字前田 1624~45寛永頃 障室永玖首座 開 山

地蔵院 元禄元 神社村 ↓岩淵町字妙見山

安楽坊 岩淵町字妙見山 1733享保18

歓喜院 岡本町字白子園

慈照院 禅宗 岡本町字向山

忠光庵 中之郷町↓岡本町字向山

地福院 宝永年間竹ヶ鼻↓岩淵町妙見山 本 · 町 字 向 山 1747延享4

喜泉庵 本町字向山

宝(法)蔵寺 真言宗 岡 本町世義寺内

積宝寺 真言宗 岡本 町 1861~4文久年間

正善院 真言宗 岡本 町

宝持院 真言宗 本町

乗蔵坊 真言宗 本 本 町

福蔵院 中西坊 真言宗 真言宗 本 町

千手院 真言宗 岡本 町

密蔵院 五大力堂 真言宗 真言宗 岡本 岡本 町 町

清寿院 真言宗 岡本町

福寿院 真言宗 岡本

覚言院 真言宗 本

地蔵院 真言宗 本

法楽舎

真言宗

本

町

中之切

町の法楽舎は明治元

還俗

観性院 真言宗 本 町

宝積庵 慈 ↓河崎

町字中寺

光(香)輪寺 禅宗 宮後町西河原町 ↓河崎 町 字中寺 町

清寿院 浄土宗 田中中世-河崎 町字 中 寺 町

春耕庵 土土宗 下馬所前 河崎 町字 中 寺 町

浄泉庵 浄土宗 田中中世古町 ↓河崎町字 中 寺

町

本覚庵 浄土宗 -馬所前 野 ↓河崎 町字 中 中 寺 寺 町 町

妙安院 浄土宗 下馬所前 野 町 ←河 崎町字

妙善院 河崎町字中寺町

栄祥寺 土宗 -馬所前 野 町 河 - 崎 町字中寺町

不想院 浄土宗 下馬所前 野町 一河 崎 町字 中 寺 町

正真院 真言宗 河崎町字中寺 町

明善院 真言宗 河崎町字中寺 町

叢林寺 土宝 河崎町字中寺町

慈照院 下三郷 →河崎町字中寺町

大泉寺末 浄土宗 河崎町八 ゚ヅ 町 1 5 7 3 ~93天正

年間

浄土宗 河崎町字西町

観音院 世義寺内覚言院付属 真言宗 河崎町門之下

円長院 世義寺内観音院付属 真言宗 河崎 町門之下

江雲 院 禅宗 崎町南町

真福 明善坊 寺 下三郷 町南 ←河 崎町南 13正德3 町

 $\frac{1}{7}$

円 空寺 中之郷町 河崎町南町

善覚寺 兼光庵 日市場町 ↓船江町越坂 船江 工町越坂

中之郷町

恵林庵 中之郷町 ↓船江町越坂 1784天明

4

自勝寺 中之郷町

徳容院 曽袮 町↓船江町越坂

長昌庵 宮後西河原町 ₩船 江 | 町越坂

一行庵 宮後西河原町 ↓船江 一町越坂

鎌康庵 禅宗 船江町越坂

周見庵 曽 祢 ↓船江町越坂 1769明和6

豊徳寺 曽 祢 町↓船江町越坂 1748延享5

善教庵 宮後西河原町 ↓船江 一町越坂 1763宝暦13

願成寺 正法院 宮後西河原町 土宗 船江 町越坂 宝鏡寺宮より御紋章を拝 ↓船江町越坂 1745寛延2

領

慶金院 宗 船江町越坂 陽和如春開基

船江 .町越 坂 甫 如 心尼開基

岳

玉泉庵 禅宗 船江町越坂

金剛寺 船江町狐垣外 外宮鬼門除けの堂 中興瑞岳禅師開基

てこのように大きくなったという伝説が残されている。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より) 左遷に従って西国に下り、帰国に際して播州袖ケ浦より小石を袂に入れて待ち帰ってきたのが、生長し 595文禄4年豊臣秀次の妾恵康尼が再興して臨済禅宗に改めたという。寺庭の白鬚右近稲荷参道 寺伝によると開基は弘法大師とい 入口には袂たもと石(お袖石)という長さ4尺、巾2尺程の石があり、この石には、度会神主春彦が菅公の い、中興は瑞岳禅師であり、もと真言宗であったが、漸次衰退し、1

松鸥軒 禅宗 船江町 心月如了尼開基

竹泉院 禅宗 船江町 1624~45寬永頃 雪庭如欽尼開基

花蓮院 禅宗 船江町 1573~天正頃 花蓮尼開基

増(蔵)福庵 禅宗 船江町今在家

念定寺 浄土宗 妙見町

超勝寺 浄土宗 妙見町

宗安寺 浄土宗 中川原町 ↓中之町 1643寛永20 業誉上 人創 <u>\(\frac{1}{2} \)</u>

観音堂 浄土宗 中之町 1678延宝6 智鑑創立

浅間寺 真言宗 桜木町

西乗寺 真宗 浦田町 天文12 僧円遊開山

長命寺 禅宗 北中村 ↓浦田町

建(堅)国寺 禅宗 浦田町 伝、行基創立

郷年寄の預かりとなった。。 配下の寺。寛永7薗田守栄と住職関禅都の間に論争があり。 応永年間、足利将軍義持の武運長久の祈祷として内宮に 一切経を寄進したのを当寺に収めた、神宮 山田奉行に訴訟したが、当寺は宇治二

慶性寺 慶光院祈願所 真言宗 浦田町

慈徳 (得)院 慶光院役者 真言宗 浦田町

普門院 法楽舎隠居寺 真言宗 浦田町

照雲寺 真言宗 浦田町 寛永年中 小川新九郎長保開基

野上寺 真言宗 浦田町 1783天明3

成就寺 真言宗 浦田町

久昌院 禅宗 浦田町 1741~4寛保年中

松寿院 真言宗 浦田町 1739元文4

寿量庵 慶光院役者 真言宗 浦田町

西光庵 浄土宗 浦田町

成就院 真言宗 中之切町 1739元文4 焼失後不再興

正法庵 真言宗 中之切町 1739元文4 焼失後不再興

万松寺 禅宗 中之切町

1之庵 (西迎寺とも) 真言宗 中之切町

明王院(不動堂) 真言宗 中之切町 1573~天正年中 豊臣秀吉開基

奨励・廃物運動のため、引取手なく焼却された。 合所に、客殿は一身田専修寺売却された。さらにのち、不動堂のみ明治元まで存在していたが、廃寺 あるので、不動堂とも称し、不動明王院、あるいは明王院とも称された。後、庫裡は宇治二郷年寄会 それにより外宮方では慶宝寺釈迦堂を、宇治方では法楽舎の護摩堂を建立した。本尊は不動明王で 秀吉の母大政所の治癒に効験があったことにより、慶光院周養尼の意を尊重して両宮に寄進があった。 もと法楽舎の別院、護摩修行する堂であったので護摩堂とも称する。永正10焼失したが、天正16に

龍泉寺 (庵) 毘沙門堂 禅宗 中之切町

一切経寺 禅宗 中之切町

林甫軒 禅宗 中之切町 1789寛政1

麟祥寺 禅宗 中之切町 1711~6正德年中

吉祥庵 禅宗 中之切町 1788天保8

兌泉(仙) 禅宗 中之切町 1825文政8

神正院 禅宗 中之切町

東雲庵 禅宗 中之切町

福寿庵 禅宗 中之切町 1739元文4 焼失後不再興

山庵 禅宗 中之切町

大因(固)庵 禅宗 中之切 町 1738元文3

順頭庵 中之切町

慶春庵 中之切町 1856安政3

宝生庵 禅宗 中之切町 1739元文4 焼失後不再興

如清庵 禅宗 中之切町

照長庵 禅宗 中之切町

妙安庵 禅宗 中之切町

億千(仙)坊 禅宗 1722享保7

養徳庵(寺) 山本左京之進義里開基

仙玉庵 (坊) 禅 宗 宗 中之切町町

林泉庵 禅宗 中之切町

洞泉坊 中之坊 禅宗 真言宗 中之切町 中之切町

常林寺 禅宗 中之切町

庭蔵主 禅宗 中之切

正蔵主 禅宗 中之切

慶因坊 禅宗 中之切

永芳坊 正寿坊 禅宗 中之切 中之切町

慶順 中之切町

西光寺 中之切町

妙法庵 中之切町

慶昌庵 中之切町 1856安政3

辻之坊 禅宗 今在家町 1866慶応2

恵日寺 微雲庵 禅宗 真言宗 今在家町 1737元文2 今在家町 1866慶応2

宝泉庵 禅宗 今在家町

広徳庵 禅宗 今在家町

養宗庵 禅宗 今在家町 1725享保10 焼失後不再興

瑞泉庵 禅宗 今在家町 1725享保10 焼失後不再興

長泉庵 禅宗 今在家町 1838天保9

正林坊 禅宗 今在家町

勝林庵 (寺) 禅宗 今在家町 $\begin{array}{c} 1 \\ 7 \\ 0 \end{array}$ **4** 11宝永年中

光明庵 禅宗 今在家町

仙正庵 禅宗 月独 (澗)庵 禅宗 今在家 今在家町 町

長 明寺 禅宗 今在家町鼓岳東麓 鴨長明 仮 過の寺

阿弥陀寺 禅宗 今在家町 1858安政5

盛尚庵 禅宗 館町

徹蔵庵 禅宗 館町

法林坊 常泉寺 禅宗 館町 禅宗 館町 1740元文5

仙 照 竹 庵 正德年中 館町

神照寺 禅宗 館町字岩井 田 Ш [西麓 保 延年 中 西行 1隠棲寺

福泉庵 禅宗 館町

金剛台寺 真言宗 館町 1837天保8

大日坊 明鏡院 真言宗 内宫風宮橋北

宮橋を造営するなどの功績もあった。万治の火災を好機に宮外へ退去させられた。 古来、神宮の供物米を収蔵する所があったが、いつの頃か、僧が住み着いて戦国時代には寺院化し、

久留山 威勝寺 真言宗 辻久留町上社南 明治3還俗

も同所(辻久留1丁目)に遺構はある。久留山荘(2008年現在)と弁財天堂 ぴ弁財天は室町時代の作と伝えられている(市文)。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より)現在 その奥に太子堂があった。また、本堂左丘上に薬師堂があり、俗に 峰の薬師」と称した。現存する八臂 久留嘉左衛門尉威勝をしなが創建。本尊は不動明王。後奈良天皇より御紋章と寺号、大覚寺 宮司大中臣千枝) 問責より御紋と翠簾サュストス (緑色のすだれ)を拝領。境内の池中に弁財天を祀る。 (神官の





妙貞院 浄土宗 宮川町 明治2

西岸寺 浄土宗 中島町 明治2還俗

帰命寺 浄土宗 中島町字京町 明治2還俗 寝釈迦(涅槃像)があった。

理光院 浄土宗 中島町字河原町 明治2還俗

九代家重の位牌を安置していたので、 山田奉行就任時、家重の命日に奉行が参拝した。

徳寿寺 浄土宗 辻久留町 明治2還俗 慶長3 僧松誉開山

正眼院 禅宗 二俣町正法寺内 明治2

潮音院 (権) 二俣町字田原 明治2 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

金蔵寺 浄土宗 浦口町字堤世古 明治2廃寺正法寺 禅宗 二俣町 明治2還俗

41

その後、岩淵町高源寺の観音堂に移された。 たものであるともいう。観音堂の本尊七観音は明治2廃寺の際、岐阜県揖斐郡薬師寺に移されたが、 当時はまだ禅宗はないから単なる伝承か、あるいは、禅宗になったのは後の事か。又、一説には、田村と 境内に観音堂、田村祠、天神祠があった。観音堂は田村将軍(坂上田村麻呂)の建立と伝えていたが、 いうのは、二俣 田原の里名にて 田原即ち 田村の転 訛で、境内にあった 田村 祠はこの田村の産 土神の遺っ (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

祠は二俣町字天神世古に移祀された。 除くために用いる呪物)と尊牌そんぱい(尊い位牌)等を拝領。 霊元法皇より御紋章と宸翰しんかん (天子の直筆の文書)、有栖川宮より御撫物なでもの (身の穢けがれを 廃寺後、 田村社は二俣町字田原に、 天神

浄土宗 浦口町字堤世古 明治2廃寺 境内に二八稲荷が祭祀

守栄院 口町字山名 明治13 古市大林寺に合併 慶安3 守栄尼開 Ш

境内に芭蕉の句 門に入らば蘇鉄に蘭のにほいかな」碑があったが廃寺時、 法住院に移設。

光照寺 浦口町字新屋敷 明治2還俗 天文3 僧教弁開山

西福寺 浄土宗 常盤町字櫓下 明治2還俗

慈眼寺 浄土宗 常盤町字櫓下 明治2廃寺

宝蔵院 (寺)十王堂 真言宗 筋向橋北↓1626寛永3大間広 ↓常盤町櫓下明治2廃寺 **落獅子**」所蔵

大善寺 浄土宗 常盤町 明治2廃寺

宝積院 浄土宗 常盤町字南山 明治2還俗

阿彌 (弥) 陀寺 上の道場 浄土宗 常盤町筋向橋の南 現在の梅香寺付近 明治2還俗

道場とも云われた。下の道場のあったところを道場寺世古と云い、旧常磐幼稚園前の世古である。また この阿彌陀寺を 上の道場」、田中中世古町(現、本町)の神光寺(船江越坂〈移転後明治2廃寺)を 中 なったとされる。中の道場に入る道も中の道場世古が略されて中世古というに至ったともいわれている。 曽禰町にあった光善寺へ通ずる道を大道場寺世古とよび、これがいつしか略されて大世古と云うように と云った。さらに曽禰町の光善寺(船江越坂へ移転後明治2廃寺)を 大道場」といって、これを加えて四 の道場」、岩淵町の勧喜寺(明治40正寿院に合併)を下の道場」として、これを(浄土宗)山田三道場 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

常勝寺 禅宗 常磐町屏風山東麓 明治2還俗

応永年間開山。 一時期無住となったが、慶長年間に御 . 師 の 橋 村正滋により再興され

小動院 真言宗 下中之郷町字新屋敷 明治2還俗

大安寺 浄土宗 下中之郷字上野町 明治2還俗

本尊は阿禰陀仏。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

林称寺 真宗 大世古町字拝田↓員弁郡十社′大正9移転 元文元 僧円 海

浄閑寺 浄土宗 一之木町 ↓一之木町字越坂 明治2還俗

一行寺 浄土宗 曽袮町 ↓一之木町字越坂 明治2還俗

珂養軒 浄土宗 田中中世古 ↓ |之木町字越坂 明治2還俗

西迎院 浄土宗 ||之木町||寛文の大火で焼失↓||之木町字越坂||明治2還俗

浄土宗河崎専修院の末寺 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

思椿庵 浄土宗 一之木町字越坂 明治2廃寺

浄土宗 一之木町 (月夜宮隣)寛文の大火で焼失 ↓ 一之木町字越坂 明治2還俗

檀に大聖勧喜 伊齋藤旧跡聞書によると、大同元(平安時代) 興生菩薩(鎌倉時代の僧)門徒の僧 熊鶴家の祖貞清 開基といわれるが時代錯誤あり。古くは真言宗でいつの頃か浄土宗に改宗。本尊は十 「天を安置していた。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より) 一面 [観音。

摂取院 浄土宗 一之木町字越坂 明治2廃寺

伊念庵 浄土宗 一之木町字越坂 明治2廃寺

靈巖寺 浄土宗 大世古町字霊厳寺町 明治2還俗

てたことによる。 昔のお堂は民家となって現在も遺構は残る。かつてこの付近を霊巌寺町といったのは、ここに霊巌寺を建 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より



三宝院跡碑



霊厳寺遺構

正悟寺 浄土宗 一之木町 ↓宮後町越坂 明治2廃寺

法持院 浄土宗 一之木町↓宮後町越坂 明治2還俗

正覚寺百万遍寺 浄土宗 |之木町 |宮後町越坂 明治2還俗

法持院 浄土宗 一之木町↓宮後町越坂 明治2還俗

盛広院 浄土宗 宮後西河原町↓宮後町越坂 明治2還俗 堤家中祖 山田祠官堤盛広建立

河原に転じた。この寺の盆石「万里江山」は盛広の遺物で山城国粟生光明寺に伝えられた。 堤家はもと宇治郷中村に在住していたが、応永6山田堤世古に移住し、堤氏と称し、三代目に宮後西

崇恩寺 曹洞宗禅宗 宮後西河原町 ↓宮後町越坂 ↓明治2松坂町養泉寺に合併

本尊は釈迦仏 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

向陽庵 (院) 浄土宗 曽祢町天機院の西隣寛文の大火↓宮後町越坂 明治2廃寺

45

天機院の子院で、本尊は観世音菩薩。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

天機院 浄土宗 曽祢町寛文の大火 ↓宮後町越坂 本尊は阿彌陀仏。天機院の末寺に度会郡村松 一念寺、 明治2還俗 山大淀村 観福寺、中大淀村 文禄2琴誉盛林上人が開 長光寺、東大

淀村 雲洞院の4カ寺があった。天機院の華鬘けまんと称するものが碧南市音羽町 海徳寺に渡っている。

伊清院(惣通寺)浄土宗 宮後町越坂 明治2還俗

祥永寺 真言宗 宮後西河原町 ↓宮後町越坂 明治2還俗

大念寺 浄土宗 田中中世古町 ↓宮後町越坂 明治2還俗

宝林院 浄土宗 宮後町越坂 明治2廃寺

無量寺 梅真庵 真言宗 宮後西河原町↓宮後町越坂 明治2還俗 (梅心院) 浄土宗 八日市場町↓宮後町越坂 明治2還俗

御室御所より御紋章を拝領 同名寺が臨済宗 東福寺派 小俣町元町1092・1に現在ある

勧喜寺(下の道場) 浄土宗 世古岩淵町字前田↓正寿院に明治40合併

慈眼庵 山田三道場の一つ。道場のあった旧常磐幼稚園前を道場寺世古という。 浄土宗 岩淵町字前田↓朝明郡杉谷村に移転 明治20移転 (山田惣絵図解説書より)

広徳寺

禅宗 岩淵町字前田 明治2廃寺 文明頃 蘭庭芳禅師開山

善念寺 瑞慶院 禅宗 岩淵町字前田 明治2廃寺 浄土宗 岩淵町↓岡本町字向山→明6尾上町寿巌院に合併 文明頃 擎堂柱禅師開山

上善寺 浄土宗 岩淵町寛文の大火↓岡本町字向山 明治2還俗

正住院 禅宗 岡本町字向山 明治1廃寺

如法寺 禅宗 岡本町字向山 明治2還俗

休々庵 禅宗 岡本町字向山 明治2廃寺

慶宝寺 真言宗 下馬所前野町寛文の大火 ↓岡本町字向山 明治2還俗 (神官の寺)

進があった。それにより外宮方豊臣家の御師上部越中守貞永が一寺を建立し、釈尊寺の本尊を移して 天正16に秀吉の母大政所の治癒に効験があったことにより、慶光院周養尼の意を尊重して両宮に寄 もとは釈尊寺と称し、祭主大中臣輔親によって 一之本町越坂に建立された。その後、荒廃に帰したが 慶宝寺釈迦堂を建立して慶宝寺と称した。、宇治方では法楽舎の護摩堂を建立した。

極楽寺 浄土宗 宮後西河原町寛文年中↓宮後町越坂 明治2還俗 恵海了円律師開山

寺僧中に龍家より出た者がある等、極楽寺と龍家とは深い因縁があったので、龍家には極楽寺関係の 創立年代は明らかではない。大世古町の御師龍大夫の祖貞盛が極楽寺の本堂を建立した事もあり、又、 もと天台宗であったが足利の中期に改めたものらしい。山田で浄土宗の始といわれる程の古刹であるが 文書が蔵されていたという。現在も遺構は残っている(不明)(山田惣絵図1643解説書昭和59年よ







蓮台 (臺) 寺 真言宗 前山郷蓮台寺村 明治2廃寺 (神官の寺)

然記念物に指定された。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より)宇治山田市史の第二章廃寺の て建立したものである。この地域で300年の歴史をもち上品質で知られる蓮台寺柿は昭和33市の天 本尊が聖観音菩薩。995~999長徳年中 一条天皇の頃 祭主大中臣朝臣永頼が神宮の霊夢に感じ 項には記載なし。 蓮台寺柿は市定天然記念物。







重清寺 真言宗 本町字向 Щ 明治1廃寺

南之坊 真言宗 本町字白子園 明治2廃寺

念定寺 浄土宗 本町字向山 明治2廃寺覚弘院 真言宗 尚 本 町 明治3廃寺

法雲寺 真言宗 本町 ↓威徳院と合併 明治5合併

威徳院 真言宗 岡本町字瀧浪山世義寺内↓他寺と合併 明治5合併

世義寺威徳院と改号して本院を廃した。 真言修験道に属し、醍醐三宝院の先達寺。 明治5世義寺本堂と延命寺・法雲寺を威徳院に合併

延命院 真言宗 岡本町 ↓威徳院と合併 明治5合併

会福寺 浄土宗 下馬所前野町 ↓河崎町中寺町 明治2還俗

長行院 浄土宗 田中中世古町 ↓河崎町中寺町 明治2還俗

十輪寺 真言宗 真言宗 下之郷 下馬所前野町 ↓河崎町中寺町 明治2還俗

↓河崎町中寺町

明治2還俗

(尼寺)

当時はかなりの巨刹で、塔頭に養寿庵・福善庵・慶雲庵・永命庵・養心庵・恵仙庵・貞心庵・慶林庵 永

喜庵・妙喜庵・瑞雲庵等があった。

大泉寺 浄土宗 惣絵図1643解説書昭和59年より) 霊瑞院を建立して隠棲の所とした。庫裏方丈束向、本堂は南向で、惣門の傍に観音堂があった。 本尊は阿彌陀仏。第 河崎町字中里 明治元還俗 一世念誉は向河崎に 一法院を創立して隠居とし、第二世然誉は河崎町八ッ町に 天正年間念誉開基 1585天正13火災同14再建

田

一法院 大泉寺末 浄土宗 河崎町向河崎 明治2還俗

霊瑞院 大泉寺末 浄土宗 河崎町八ツ町 明治2還俗

大泉寺末 浄土宗 河崎町字西世古 明治2還俗

大泉寺末 町八ツ町 明治2廃寺

景福庵 町字八ツ町 明治2廃寺

宝珠院 河崎 町字南町 明治2還俗

大智庵 宝珠院末 河崎町字西世古 明治2廃寺

専修院 浄土宗 河崎町字北中里 明治2還俗

真正院 専修院末 浄土宗 河崎町向河崎美濃倉世古 明治2還俗

願成寺 専修院末 浄土宗 河崎町字御倉町 明治2廃寺

南栄寺 禅宗 河崎町字大世古 明治2還俗廃寺

宝樹庵 浄土宗 河崎町字南町 明治2廃寺

浄泉院

浄土宗

河崎町字南町

明治2還俗廃寺

曼陀羅寺 浄土宗 船江町越坂 明治2廃寺

日輪庵 浄土宗 一之木→船江町越坂 明治2廃寺

慈徳庵 禅宗 下中之郷町 ↓船江町越坂 明治2還俗

来迎寺 真言宗 船江町字新道 明治2還俗

浄土宗 宮後町西河原町 ↓船江町越坂

明治2還俗

慶長元和頃

行誉上人開基

信行院

船江寺 禅宗 船江町 明治2還俗

海蔵庵 船江町 明治2還俗

浄土宗 船江町→寿巌院に合併 明治5合併

(中の道場) 時宗 田中中世古町 ↓船江町越坂 明治2還俗 正安3 一遍上 人開基

会所が置かれた。 安3藤沢遊行上人(一遍上人)に寄進したものという。寛文の火災後、船江町越坂に移転したあとには 中の道場があったので中の道場の世古で、中世古という。ここにはもと天神社があったが、その場所を正

光善寺(大道場)浄土宗 曽袮町↓船江町越坂 明治2還俗

解説書昭和59年より) た。又、大世古は大道場世古の略だともいう。移転跡地は曽祢町会所となった。 山田三道場の外にこれを大道場と称したほどに著名なものであった。その辺りを光善寺町とも言われ (山田惣絵図1643







常明寺 天台宗 常明寺門前町 明治 開基は諸説あり

家とは関係が深く、 真言宗であったが、1624~44寛永年中に天台宗に改宗した。古来、如何なる因縁なのか度会神主 草創はよくわからないが、光明寺所蔵文書によると平安朝末にはすでに常明寺の事を載せている。 毎年正月8目外宮神官が参向し、境内にある神落萱社かんおとしかやしゃ(現存)に於て もと

を戴くと子が授かると宣伝されていた。 祭を行ない、寺僧も本堂で誦経し、行事が終わって男女陰陽形の餅をまいたという。子の無い者がこれ

明治元年6月に勅使の命によって取り払われるまで建っていた。(山田惣絵図1643解説書昭和59年 て訴えがでて、 鳥居に「両太神宮内院高日山大神宮寺」(宇治山田市史)と書いた(勢陽五鈴遺響』では「両宮内院高 として使用しないことを願って建てたのがはじまりと伝えられている。1675延宝3年に常明寺がこの 間の山の坂から常明寺門前町に入るところに鳥居が建っていた。江戸時代のはじめ頃、この付近を刑場 より)跡碑と神落萱社 日山常明寺」と記している。)扁額を掲げたことについて、神宮から山田奉行所〈容認できないこととし 奉行所は鳥居とともに取り払うよう指示したものの、額のみを下して鳥居は撤去せず、





慈眼庵 禅宗 船江町 明治2還俗 明暦2無明和尚開基

り、伊勢 中山寺愚堂和尚の弟子となったという。 無明和尚は元豊後杵築藩士須田弥左衛門といい、寛永14天草切支丹 | 揆に戦功があったが国を去

大江寺 禅宗 船江町狐垣外 明治2還俗 貞享2無住和尚再興 ↓現、瑞泉院

宮川が分流したこの地が大江をなしたことによる。元禄年間に芭蕉が庵居したともいう。

清涼院 禅宗 桜木町 明治2還俗 正保3哲禅師創立

真教寺 禅宗 桜木町 明治2廃寺

地蔵院 真言宗 桜木町 明治2廃寺 伝、弘法大師創立

が安置されたが、 本尊は一木三体のひとつで上之地蔵という。二は飯高郡朝田の中之地蔵、三は鈴鹿 当地では、同寺が両神宮の中になることから中之地蔵と言われた。 郡関の下 ·之地蔵

53

弘正寺 (楠部町) 明治初年廃寺 前述

毘沙門寺 禅宗 浦田町 明治元廃寺

成願寺 真言宗 浦田町 明治元廃寺

菩提寺 禅宗 浦田町 明治3廃寺

清水寺 真言宗 浦田町 明治元廃寺

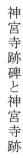
常慶院 禅宗 浦田町 明治2

智蔵庵 禅宗 浦田町 明治元廃寺

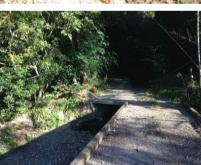
禅宗 今在家町 明治2 還俗

菩提山 神宮寺 中村町 明治2廃寺

鎌倉時代の文献に寺号がみえ、寺宝の多くは愛知県碧南市方面に移った。







岩井寺 禅宗 館町 明治2還俗臨皐庵 禅宗 今在家町 明治2 廃寺

真常院 真言宗 山田宮崎 ↓館町西行谷 明治2還俗

慶光院 臨済宗 (禅宗) 尼寺 天正年中山田西河原町 ↓浦田町 明治5還俗、

ある。 族に編入され同36慶光院の姓を再称した。 によって神宮との結びつきが強くなった。後年、 周清は寛永2徳川秀忠から朱印状を得て両宮の遷宮を果たした上に困窮する神宮家を援助したこと 第四世周養上人によって天正13内宮外宮ともに正遷宮を行い、式年遷宮の復活を果たした。第五世 に功績があった。天文18宇治橋造替し、永禄6外宮正遷宮を遂行したが、内宮遷宮を前に逝去した。 らかではないが、明応・永正頃、第 一世守悦上人が宇治橋流失に際し、架橋に尽力した功績が最初で 朝廷や幕府の祈祷職を任じられていた神都にありながらどこにも所属をしない寺院である。創始は明 第三世清順上人は氏弁財天同の穀屋に勤めていたが、神宮の式年遷宮の衰退をみて、その復活 衰微していった。廃寺後は宮橋姓を称したが、 明治5士

慶光院墓所門





旧慶光院 門は元太郎館大夫門

ってきた。 修行しで法楽寺と称したが、文久元には勅願寺に準じられた。その後、建治年間に蒙古来冠の情勢が 町字坂世古の世義寺境内に、宇治のは護摩堂の南隣にあった。 切迫するようになったために両宮誓うに法楽舎が立てられるようになった。 祭主大中臣永頼が蓮台寺を前山に建立した以来、神宮を僧が参拝(法楽)することができるようにな 1258正嘉2祭主隆通の男子通海は度会郡城田村棚橋村の私堂蓮華寺において、法楽を 外宮の法楽舎は八日市場



宇治法楽舎跡碑

気郡 荒木田 一門氏人の創建 (神官の寺)とも言われている。 寺もその前後に開基されたものかも知れない。また、 田宮寺(神官の寺)は長徳年中に二門の中祖 一禰宜(内宮長官)氏長の創立となっていることから、 佐八神主 真言宗度会郡小社村 ↓宇治郷岩井田 小社村にあった同門の氏神社を宇治岩井田山 創建時代は不詳。荒木田二門の氏寺である多 ↓中之切町度会郡小社村 明治元廃寺

に移転された同時期だったかも、あるいは、 戦国時代以 無領状態になって、岩井田より中之切に移建された元禄期だったかも知れない。 同寺は荒木田家の氏寺であったので神領内に所領があった

第七章 伊勢市 (2019年現在)のお寺

1、合計25ヶ寺である。|寺 興や新設が多少はあった。大正15年の寺院は、浄土宗10、禅宗5,真宗5、天台宗3、真言宗1、 令の改正があって、信教の自由が確保されたために、寺院の信者数が増え、法会の流行もあって、廃寺の再 大正15年にあった寺院。 (宇治山田市史 P. 978)これら寺院の激減は多少、反動思想的であったようで、その後、宗教の保護や法 は昭和4年発行 宇治山田市史 第九 寺院編 第三章 現在寺院」に記載 日蓮宗 0

大巖山 玄 忠 寺

(所在) 二俣町字 田原 ↓二俣1·10·4

(宗派)净土宗鎮西派京都知恩院末

(本尊)阿弥陀如来

(開山) 元禄年中1688~1704の創建、あるいは越坂から移建したものとも

(事蹟) 境内には県下最古、 1501明応10の銘がある六字 (南無阿弥陀仏) 名号板碑 (市文)が

ある。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より)







花慶山法住院山安寺かさもりいなり

(所在)浦 口町字山名 ↓浦口3·1·29

(宗派) 天台宗山門派比叡山延暦寺末

(本尊) 不動明王

(開山)885~9仁和年中 智證大師が建立し、1556弘治2 清重法印の中興と伝えるが、16

70寛文10年の大火に縁起が焼失して沿革は不明。

(事蹟)1609慶長14 津辻越後在銘の銅磐けい(市文)のほか、境内に芭蕉(蘇鉄塚)、伊東自然、 夜雨亭二曲、青蘆庵野渡、古森省吾らいずれも墓末期の句碑がある。 (山田惣絵図1643解説書

昭和59年より)









観音山蓮華院 梅香 寺

(所在)常磐町蓮随山 ↓常盤町字清水世古 ↓常磐2・14・5

禅石が往時を偲ばせる。 43 常磐町清水世古に移建し現在に至る。蓮随山の梅香寺旧跡 の時、本堂を再興、明治維新後、無住となったので、度会郡棚橋村蓮華寺に合併したが、1910明治 615元和元 梅香禅尼(徳川家康の側妾お梅の方)の為に創立 (事蹟)1658万治元 焼失、4代源誉 (宗派) 浄土宗鎮西派 知恩院末(本尊)阿彌陀如来(開山)開基蓮随上人は幡随意上人の弟子で、1 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)初代家康位牌安置。 山門を潜るとしだれ桜の古木と坐











霊衍山等 観寺

(市文)などがある。 輪観音、聖観音、 雲水30名、 範門院は聖観音像を禅師に寄せられたという。江戸時代に入り、1648慶安元 三河新城の領主菅 賢寺より転住。 沼織部の弟が出家して当寺に住した関係から、堂宇再建に際し金百両を寄せ、当時、末寺36、常在 (開山)寺伝によると、1394応永元 後小松院の勅願により草創、開山大翁真覚禅師は三河新城崇 (所在八日市場町字坂世古↓八日市場12・14 11正徳元 堂宇を再興し、現在に至る。寺宝として、雲板(県文)をはじめ、13仏画像(市文)、如意 中本寺の資格を得た。ところが、1706宝永3 (事蹟)足利義満は応永15に帰依の如意輪観音像を寄付。また、称光院御生母光 仏涅槃図(市文)、長谷川等伯画四季山水図屏風(市文)、厨子(市文)、 籾塔もみとう (山田惣絵図1643解説書昭和59年より (宗派)曹洞禅宗総持寺末 火災にあい、悉く烏有うゆうに帰した。1 (本尊)釈迦牟尼仏





厭離おんり山易行院 欣 浄 寺 ごんじょうじ (再興)

位牌安置。 同15、今度は倭町の常明寺境内に寺堂を再建、寺宝等を本山より還遷した。その後、1917大正 で堂宇が悉く焼け、越坂に移転した。明治2 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)知恩院門跡より御紋章を拝領。五代家綱、生母他の (所在) (開山)1540天文9 現在地に移転。(事蹟)寺宝として、円光大師満月像、円光大師感得の日の丸名号等がある。 一之木町 ← 一之木2·6·7 拈蓮社易誉上人の開基で一之本町に創建されたが、1670寛文10の大火 (宗派) 浄土宗鎮西 一旦廃寺となり、寺宝等は京都知恵院に移されたが、 派知恩院末 (本尊)阿彌陀如来







木槿山 常 (浄) 蓮 寺 (新設)

(所在) 宮後町字越坂 ↓宮後3·4·21

(宗派)真宗本願寺派

(本尊)阿弥陀如来

という。明治15年堂宇破壊し同28年現在地に移転し同30年に本堂を再建した。 (開山) 元伊賀にあったが存覚上人が木槿の技をもって六字明号を書かれたことにより山号も生じた







医王山 養 草 寺 (瑠璃光院)

と称す) 越坂に移建 (所在)元、箕曲郷鍛冶屋垣外の南端、即ち桜堂橋の近くにあったが、寛文の大火後、現在地宮後町字 (開山)天文15年1546の創建で、開基は展徳慶伝和尚という。 ↓宮後3・7・7 (宗派)浄土宗西山派京都禅林寺末 (本尊)薬師如来(俗に水の上薬師

図1643解説書昭和59年より)最下写真は伊勢市駅裏の旧地碑 ■0年1670の大火の際に、自ら井中に投じて無事であったというところから出たという。 (事蹟)本尊を水の上薬師と称するのは、仏壇の下に井戸を掘りその上に像が安置してあったが、寛文 (山田惣絵











64

同日山常明寺(新設)

寺隣に現在も残る(最下写真)。両太神宮内院との記載碑あり 係との記述もあるが、境内説明文によると、宗祖日蓮上人1222~1282は建長年中(13世紀中 新居日薩上人はこの名跡を承け継ぎ、現在地に本寺を建立したが、今次戦災で堂宇焼失。昭和56年 常明寺と改称した。日蓮大聖人三大誓願発祥霊場。境内説明文によると、明治23年、宗門の高僧 頃)倭町にあった旧常明寺を参詣し、法華宗○宗の祈願をしたという。その祈願場所は倭町の旧常明 には1798寛政10年建立の芭蕉の 本堂、堂63年山門を再建した。主な寺宝は、日蓮上人自筆石造宝塔、後陽成天皇宸翰がある。境内 山) 元山梨県の常円寺と称し慶長11年創建。明治27 一之木町 ← 一之木1·5·19 秋風塚」がある。 (宗派) 日蓮宗 身延山久遠寺末 (事蹟) 同名の倭町にあった旧常明寺とは無関 日蓮宗説教所として現地に移転、寺号を (本尊)中央宝塔









(所在) 岡本町滝浪山 ↓岡本2·10·80

として名高い。寺宝としては、 より、岡本2丁目に移転した。毎年7月7日の護摩法要は柴燈大護摩と呼ばれ、日本三人護摩の1つ 9天平年中聖武天皇の勅を奉じて東大寺大仏鋳造の事を行基菩薩が祈請した時と伝える。 中興の祖 如来坐像(市文)、十一面観音立像(市文)などがある。 設け、これを智證院と称したともいう。 (事蹟)1670寛文10の大火後、 円海律師の時、1249~56建長年中に外宮宮城の西、坂の世古に移建し、境内に大神宮法楽舎を (宗派)古義真言宗醍醐派(本尊)薬師如来(市文) (開山)もと、継橋郷前山にあり、創立は729~4 1178治承2銘の陶製経筒(重文)をはじめ、愛染明王坐像(県文)、薬師 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より) 山田奉行桑山丹後守の命に

66







大聖歓喜天

金皷山 光 明 寺

(所在)前山↓吹上町↓岩淵町字前田↓岩渕3・3・11

岳に創建。後醍醐天皇元応元年に月波恵観禅師が再興。同師は結城宗広の男子であったともいう。 (宗派)臨済宗東福寺派 (本尊)阿弥陀如来 山)天平年中聖武天皇の勅願にて度会郡前山皷ケ

にあり、 して出帆の準備を整えたという。途中で難破して同寺に戻って再起を図ったが叶わなかった。 元吹上町 (事蹟) 延元3 義良親王を奉じて北畠親房 父子結城宗広入道などの東国下りのときには同寺に滞在 結城宗広の大きな墳墓があった。古来、御紋章差許されていた。







大塚山 護国寺 正 寿 院 (現、大塚山 正寿院 赤心門寺)

(所在) 塚山 ↓岩淵町字前 田 ↓岩渕3·4·25

有栖川宮家と因縁があった。最上写真は2007年頃、中と下は2019年撮影 (宗派)浄土宗 (本尊)阿弥陀如来 (開山)元真言宗の道場であったが永禄7 知恩院の末寺となった。 (事蹟)大宮司河辺家を始め、師職家の檀家も多かった。寛文10の大火で焼失し、現在地に移転した。







68

摂取山 善光 寺

(所在)吹上町 ↓吹上1·11·34

寺嶺松院 大湊1116もある。何時も門扉が閉じられていて入ることが出来ないみたいです 大師堂を移建した。1626寛永3の瓦銘がある。(山田惣絵図1643解説書昭和59年より) 善光 治4年の火災によって旧記が悉く灰になった。(事蹟)再建の際、もと辻久留町にあった同宗の威勝寺 戒国師が始めて小堂を設け、1504~21永正年中 に法孫盛俊上人が堂宇を興したと伝えるが、明 (宗派) 天台宗真盛派 松阪来迎寺末 (本尊)阿禰陀如来 (開山) 1492~501明応年中に円自



海雲山 高源(禅)寺(再興

(所在)岩淵町字尾部山 ↓岩渕3·4·90

に創建し、永享3年に岩淵町に移転した。元禄17年に妙心寺末となった。明治15年に再興した。 (事蹟)観音堂に安置の七観音は元二俣町にあった正法寺にあって、田村将軍の念持仏であったが、明 (宗派)臨済禅宗 妙心寺末 (本尊)釈迦如来 (開山) 応永30年岩淵町に三日市大夫次郎が鹿海村

なった。最上写真は2007年頃撮影。その後、廃寺になったようだ。以下は2019年撮影。 治維新後に正法寺が廃寺になった時に一時岐阜県薬師寺に移管されていたものを再び安置すことに









隱岡山寿 巖院 入門寺

入門寺 (所在)入門寺は岡本町瀧浪山東にあったが、明治6年尾上町寿巖院に合併 ↓尾上7・48 入門寺・念仏寺・禅念寺などを併合した。境内に眠地蔵、身代わり地蔵、三浦樗良句碑などあり。 如来 元、入門寺にあったもの 寿巖院(所在)尾上町字隠岡山↓尾上町7·48 (宗派)浄土宗鎮西派 (宗派)浄土宗 (本尊)阿弥陀如来 (開山)1611慶長16 幡随意上人の開基。 (開山)1615元和元年縁蓮社励誉寿巌上人の開基。万延年中に 知恩院末 (本尊)阿弥陀

言って世間に喧伝された。 せられた。1830~44天保年間の住僧重誉という者、灸術に妙を得、入門寺薬師夢想の灸点と (事蹟)寺内に菅公祠があり、網敷天神といった。また、境内の椿樹は開山上人の栽植と伝えて愛翫 (山田惣絵図1643解説書昭和59年より)

光格天皇より本尊薬師仏〈御紋章と翠簾を拝領 (写真中) 三浦樗良句碑







文殊寺

(所在)岡本町宇中之切 寛文10大火↓岡本町字小田川 ↓2019現在廃寺

(宗派)浄土宗鎮西派 知恩院末

(本尊)文殊菩薩(伝、弘法大師作)

(事蹟)大正末期は無住で寂照寺兼務であった。 岡本町2・4・12清水世古公園内に廃寺碑あり。



宝鏡山瑞泉院(新設)

(所在)船江町字浜田 ↓船江3·11·44 (宗派)臨済禅宗 南禅寺末 尼寺 (本尊)弥勒菩薩

(事蹟) 本寺は臨済宗妙心寺派であった元禄時代創建の大江寺が明治初年に廃寺になった旧地。同寺 山)元朝熊山金剛證寺の末寺で、明治維新の時に廃寺になったものを再興した。

開山と伝えられている。 同○○隣の小庵二○ (三乗) 軒には松尾芭蕉 (1644~94)が止宿した○○ 防?禅師 (~1449)が開山した。大江寺の創建は不詳だが、1685貞享2年○○無住和尚が中興 最後の住職であった大江竜眼和尚が明治20年朝熊山金剛證寺の塔頭の 藪づばき 門はむぐらの 若葉かな」は現在、○○塚として境内に残されている。明治12年この地の俳 一つであった瑞泉院明伸志

人たちの協力により建立された。本堂は市内の江戸初





旧邸宅だと伝えられている。

高照山 大 林 寺

(所在) 古市町字西裏↓古市97

(宗派)净土宗西山派 禅林寺末

(本尊)阿弥陀如来

5年に火災にあい、安政2年に再建された。 (開山)寛永2年僧信空の開基。元は古市町字東裏に創立されたが元禄4年に現在地に移転。嘉永

(事蹟)境内には油屋騒動の遊女おこんの墓があるが、江戸俳優三代目坂東彦三郎が建立した。





おこんの墓

二河山白道院 本誓寺 (再興)

(所在)久世戸町↓久世戸96

(宗派)浄土宗鎮西派 知恩院末

(本尊) 阿弥陀仏

(開山)寛永13年天誉龍太上人の開基。 明治2年に廃寺になったのを同13年西山白道が再興。





栄松山 寂 照 寺 浄土宗

(所在)中之町 ↓中之101

焼失したが、同26年再築された。屋根瓦には三つ葉葵の紋所 永年中に知恩院の僧、月僊が絵画の特技によって再興した。(事蹟)明治14年の火災により全てが 大和尚が徳川秀忠の妻千姫(天樹院)の位牌等を安置したことに始まる。暫く無檀家であったが、安(宗派)浄土宗鎮西派 知恩院末 (本尊)阿弥陀如来 (開山)延宝年中知恩院第37世寂照知鑑







真宗大谷派説教所 (新設) ↓現在の真宗大谷派光明山常照寺

(所在)下中之郷町 ↓宮1·18·25

(宗派)真宗大谷派

(本尊) 阿弥陀如来

(開山) 明治10年







真宗本願寺派説教所(新設)↓浄土真宗本願寺派(西本願寺)本願寺 伊勢教堂

(所在)倭町↓倭49·1 西本願寺派

(宗派)真宗本願寺派 (本尊)阿弥陀如来 (開山)明治10年

善覚寺法話所 ↓净久寺 本願寺伊勢教堂

た。同所は現在、出雲町自治会会館となっている。 (所在)中島町字出雲町(中島1・3・5)にあり、 元は法和寺と称したが1989年頃は浄久寺だつ ↓倭49·1 本願寺 伊勢教堂に属す。

(宗派)真宗本願寺派 (本尊)阿弥陀如来 (開山)明治33年

(最下)2008年頃の浄久寺

78









金胎山松鴻寺 不動院

(宗派)曹洞禅宗 永平寺末 (事蹟)明治維新前までは那須家より扶持米の寄進があったという。 (開山) 元度会郡神田領桜辻にあったが、享保年中に現在地に移転。 (所在)吹上町字御屋敷↓船江町字浜田↓吹上町2·6·12 (本尊)不動明王(伝、那須与一本尊)







真宗高田(専修寺)派説教所(新設)

(所在)河崎町 ↓現在はない

(宗派)真宗高田派 (本尊)阿弥陀如来 (開山)明治7年

遍照庵

(所在)岩淵町字 一誉坊 ↓2019現在ない

(宗派) 天台宗真盛派 (本尊)阿弥陀如来 (開山)延宝6年僧 一誉の開基

(事蹟)吹上町の善光寺の小庵

第八章 2019年現在の他寺

職業別タウンページ等に記載のその他の寺院を列挙する。 宇治山田市史の大正15年における 第三章 現在寺院には記載はないが、 伊勢市電話局内の電話番号簿

神護峯 中山寺 臨済宗妙心寺派 勢田410

643解説書昭和59年より) 建立し、現在に至っている。この中山寺への昇り口、左側に、徳田椿堂の句碑が建っている。 本尊は釈迦牟尼仏。亀山城主石川備前守の依頼により、愚堂国師が1651慶安4に本堂・山門などを (山田惣絵図1





松尾観音寺 単立 楠部156.6

を屋根に戴く。その後は伊勢国司の北畠氏や北畠一族の木造氏によって庇護を受けた。大正15年宇治 山田市史に記載なし 夫婦龍神伝説のある二ツ池がある。本尊を安置する本堂は、般若心経 1 万巻を納めた青銅製の擬宝珠 んで本尊としたという。712和銅4年 行基の開創とされている。 日本最古の厄除観音」とされている。本尊は十 一面観音 伝、行基作。寺伝によれば、伊勢神宮へ参拝に訪れた行基が自ら十 一面観音像を刻









高伝寺 曹洞宗 御薗町上條539 千束屋りとの墓がある







瑞応院 臨済宗南禅寺派 曽称町5512 ない 曽祢1・6に弁天寺(写真)があるが?





妙見堂

そこで、小田岡崎宮の霊地に堂をつくってこれを安置したという。ここの妙見菩薩は、1301正安3在銘 もと、度会氏の祖先を祀った社で岡崎宮ともいった。859貞観元 外宮の大内人高主の童女が誤って御贅 り)現在、遺構は残っている。伊勢妙見顕彰会(事務局 本覚寺 のもので重文に指定されたが、戦後、県外に移されてしまった。 川(勢田川)に落ちてしまったので、高主がその遺体を探していたところ、水中に童形の妙見像を見つけた。 四日市市西新地)が管理している。 (山田惣絵図1643解説書昭和59年よ





念法寺 心証寺 臨済宗南禅寺派 念法真教 岡本3・2・4 楠部町1858・1 大阪市総本山金剛寺大正14年開基

伊勢小僧伽 日本山妙法寺 中村町703・1

自性軒 曹洞宗 神久4·10·58

仏立寺 本門佛立宗 御薗町高向934

昌久寺 臨済宗妙心寺派 一色町1609 門徒本堂は御師 橋村大夫邸遺構







85

西方寺 曹洞宗御薗町上條155:1

宝林寺 浄土宗 御薗町小林361

善慶寺 浄土真宗本願寺派 竹ケ鼻町 藤倉159

野 山真言宗大聖遍照教会支部 真言宗 一之木5・4・12 一般住宅 ↓竹ケ鼻町236・10?

海眼寺(院) 曹洞宗 大湊町777

東照山 浄土宗 吹上町松原↓妙見町↓神社港137寛永7 玄的上人開基

堂で安置されていた眠りに霊験あらたかであるとしょうされていたもので、明治2寺内に移転させた。 像を安し、東照山清雲院と号したのが始まり。俗にお夏寺とも言った。寛文の大火によって妙見町に移建 京都知恩院尊誉玄的上人が徳川家康の側室清雲院お夏の方の心願より吹上町松原に開基し、家康の た。境内には身代地蔵と眠り地蔵があったが、眠り地蔵は常明寺門前町と古市町の堺身内にあった小

(事蹟)初代家康位牌安置 大正15年宇治山田市史に記載なし (下)妙見町の跡碑







善光寺嶺松院 浄土宗 大湊町1116 献忠寺 真宗高田派 大湊町783·2

勝峰山 兜率院 金剛證寺 臨済宗南禅寺派 朝熊町548

た。これにより東岳文昱を開山第一世とし、真言宗から臨済宗に改宗し禅宗寺院となった。 その後、衰退したが、 ているが、定かでない。平安時代825天長2年に空海が真言密教道場として中興したと伝えられている。 (本尊)虚空蔵菩薩 1392明徳3年に鎌倉建長寺五世の仏地禅師東岳文昱とうがくぶんかくが再興に尽力し (創建)6世紀半ば、欽明天皇が僧・暁台に命じて明星堂を建てたのが初めといわれ

が供えられる、全国でも珍しい寺である。 神宮の奥の院とされた。それらから、仏事に用いられる樒(しきみ)ではなく、神事に使われる榊(さかき) 虚空蔵菩薩の眷属、雨宝童子が祀られており、当時は天照大御神の化現と考えられたため、伊勢皇大 と結びつき、 神仏習合時代、伊勢神宮の丑寅(北東)に位置する当寺が 伊勢へ参らば朝熊を駆けよ、朝熊駆けねば片参り」とされ、伊勢・志摩最大の寺となった。 伊勢神宮の鬼門を守る寺」として伊勢信仰

87

まつわる所蔵品がいくつかある。嘉隆の三男有慶は嘉隆の菩提を弔い 一世となった。 関ヶ原の戦いから敗走したのちに答志島(現・鳥羽市)で自刃した九鬼嘉隆のゆかりの寺であり、嘉隆に 金剛證寺に出家し、 金剛證寺第十

で豊臣秀吉の七将の一人、池田輝政公が火災で失われた本堂摩尼殿まにでんを再建した。この本堂は270 1元禄14年に徳川綱吉の母 江戸期以降、宗派を問わず葬儀ののちに朝熊山に登り、金剛證寺奥の院に塔婆を立て供養する 江戸時代には徳川幕府が伊勢神宮と絡んで重視し援助した。1609慶長14年には播磨国姫路 桂昌院による修復を経て現存し、重要文化財に指定されている。 岳参 城主

り」岳詣(たけもうで)」などと呼ばれる風習がある。 Wikipediaより)

金剛證寺









奥の院





卒塔婆群

石城山 永松寺 臨済宗南禅寺派 朝熊町1212 金剛證寺末寺

(創建)1469~87文明年間 (開基) 松禅

を伝授した。 岩城」は石城山永松寺の山号よりとった。秋田氏は第三代 俊季としすえの時に福島県三春藩 転封したが、さらに、嫡子 俊季との不和などを責められ、1631寛永8年(55歳)朝熊山麓の永松庵 ともに自刃した。蝦夷を管理する秋田城之介である秋田藩第二代藩主 秋田実季 きねすえ 1576天正4 右馬介は関ヶ原合戦で大垣城が落城し朝熊山に逃れたが、家康に知られることになり、永松寺で家臣と へ移されて現在に及んでいる。 に蟄居させられた。蟄居の間、風雅を好み、仁術に長けていたので中倉義元に 秋田教方 (事績)境内には濃州大垣城主福原右馬介(石田三成の娘婿)と秋田城之介助の墓がある。 1660万治2)は、関ヶ原の際の不手際により徳川家康の命を受けて常陸宍戸藩 (現茨城県友部町)に (下) 秋田城之介墓 岩城萬金丹」





望海院 與楽院 地福院 臨済宗南禅寺派 臨済宗南禅寺派 朝熊町548・2 金剛證寺末寺 朝熊町548・20 町548・33 町548・27 金剛證寺末寺 金剛證寺末寺 金剛證寺末寺

臨済宗南禅寺派 金剛證寺末寺

朝熊町548・35

珪田院 孝源院 臨済宗南禅寺派 朝熊町1436 金剛證寺末寺

静隠庵 臨済宗南禅寺派 一字 田町715

三法寺

浄土真宗本願寺派

朝熊町1656・1

浄土寺 浄土宗 小俣町元町753

西光寺 真宗大谷派 小俣町元町1065

無量寺 臨済宗 東福寺派 小俣町元町1092:1 同名の廃寺あり

慶蔵院 浄土宗 小俣元町1211

法顕寺 (院) 日蓮正宗 小俣町宮前27

浄土宗 小俣町湯田558

東光庵 浄土宗 小俣町新村260・1

大楽寺 曹洞宗 上 地 1

高蔵(禅)寺 臨済宗妙心寺派 東豊浜町1067

瑞雲寺 臨済宗妙心寺派 東豊浜町1422

地蔵院 浄土宗 川端町29 本堂は五二会ホテル玄関の遺構 (下)虎尾山にあった五二会ホテル





託明寺 真宗大谷派 西豊浜町1490

西林寺 浄土宗 西豊浜町1495

忍徳寺 真宗大谷派 西豊浜町1859

福浄寺 浄土真宗本願寺派 西豊浜町1904

長泉寺 西豊浜町小川3047

善昌院 二見町今 一色11

禅宗寺 臨済宗妙心寺派 二見町松下2017

太江寺 真言宗醍醐派 二見町江1659

江地蔵尊 二見町江581

正覚寺 浄土宗 二見町江588

増徳庵 曹洞宗 二見町江620

高泉庵 曹洞宗 二見町江733

慶春寺 臨済宗妙心寺派 二見三津302

明星寺 臨済宗南禅寺派 二見三津787

不断寺 曹洞宗 二見町荘1744

桂林寺

浄土宗

横輪285

高林庵 久昌寺 曹洞宗 曹洞宗 矢持町菖蒲127(横輪町の奥)

矢持町床ノ木245

雲洞院

浄土宗

東大淀町194

道浄寺 真宗大谷派 東大淀町177

教楽寺 真宗大谷派 村松143

一念寺

浄土宗

村松3899

93

宝寿寺 光徳寺

曹洞宗 曹洞宗 曹洞宗

津村町482 神薗町1104

泉寿院 曹洞宗

中須町1712

福寿寺 臨済宗妙心寺派

樫原町114

臨済宗妙心寺派

柏町525

玉雲(禅)寺 臨済宗妙心寺派 磯町963

本覚寺 大雲寺 海蔵寺 光徳寺 正覚寺

真宗大谷派

有滝町2075·1

曹洞宗 曹洞宗 曹洞宗 曹洞宗

有滝町1981

上野

円座町1052 円座1502 長泉寺

曹洞宗

佐八町2106

正伝寺

栗野町1131

伊勢の寺は明治2年の天皇行幸のため、その沿道にある寺が廃寺・移転させられたのか

も、寺院は無制限に増加していったのだろう。 どに伴って増加していったが、 わず民衆は原則として特定の仏教寺院に属することが義務となった(Wipedia)ため、そのため宇治山 江戸中期以降は住民調査的な制度に変移していった。 あり、キリシタンではないことを仏教寺院に請け負わせてた(寺請制度1671寛文11年)に貼発展したもので。 め」という政策の実行によって、さらに勢いを増した。 伊勢神宮の膝下である宇治山田の寺院は、古来、寺の創建に関する規程がなかったために、その人口増加 1624~45寛永以後のキリシタン禁止令により、その取締方法として 宗門改め」とは、民衆の信仰する宗教を調査する制度で 結果として、これ以降、武士・町民・農民など階級問 宗門改

したと思われる。 や寺号ない仏舎は取り壊すように命じた。また、それ以後も時の為政者が機会ある毎に寺院を整理しようと に畏れ多いと憂い、 しかし、1666寛文6~1684天和4年、 1670寛文10年の大火を契機に、幕府の許可を得て、過去40年以内に創建した寺院 山田奉行だった桑山丹後守は、 神宮神域に寺院があるのは



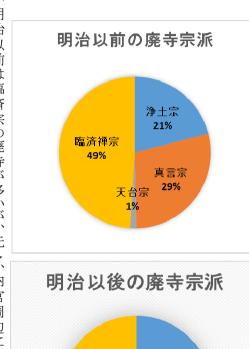
底したということだろう。 底したということだろう。

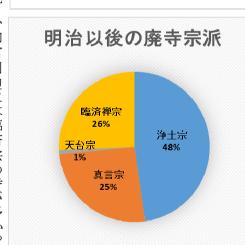
には、多少の増加がみられた。また、削減が激烈だったという反省があったので、大正期

明治2年の15ヶ寺の数は宇治二郷も含まれる。(上グラフ) 山田十二郷の寺数の推移 宇治山田市史より

疑問2 廃寺された寺は神官が 建立した寺が優先的だったの か

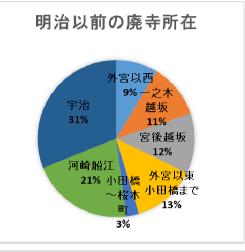
たものがあった。 今後の課題としたい。 伊勢の寺は、①各宗派大寺の末寺 しかしながら、 蛇足ながら、 今 回 廃寺の宗派 の調査では、 ·もあったにけれど、②神宮家、③会合年寄、 別を明治前後で調べてみると次の通りである。 その概要を把握するほどの資料を見出すことは出来なかった。 4 町、⑤私 の支配下にあっ

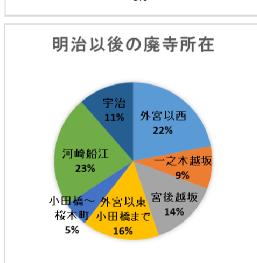




向で内宮周 結果として、 辺の寺が多く廃寺になったことを表している。 明治 以前は臨済宗の廃寺が多いが、 元 々、 内宮周辺には臨済宗の寺が多かった。 反面、 明治 初期に浄土宗の廃寺が多 かったのは、 山 田奉行の意

寺の削減が進められたと考えるべきではないだろうか?従って、宗派による差別はなかったように考えられる。 在も生き続けている。 したいという日本人の願望が常にあったということではないだろうか? お寺の削減は明治初期の国家神道などの思想によるというよりは、伊勢神宮周辺を神都に相応しい町並みと 宮周辺の寺が明治政府によって廃寺・移転されたものである。 また、明治前後の廃寺所在についても次の通りであるが、 宗派と同様で、明治前後で大きな差がなく、伊勢の 為政者が変わっても宇治山田では総合的に順 この 日本人の願望」は令和となった現





第九章

む

す

び

第八章

2019年現在の他寺

7 9

9

5 7 $\frac{4}{0}$

第七章

伊勢市 (2019年現在)のお寺

第六章

明治以後に廃寺になった寺

第五章

時期不明あるいは明治以前に廃寺になった寺

第四章

宗派の概要

23

 $\frac{1}{7}$

1 1 9

 $0 \\ 1$

26

第三章

明治時代

第二章

江戸時代

第

一章

神領の寺院の歴史

江戸時代まで

序

章

は

じ

めに

あとがき

な形で、さらに実現できることを望みたい。 古代より変わらず、八百万の神々、つまり自然を大切にするという現われであろうし、 の時代となり、伊勢神宮の神様 天照大神の子孫である新天皇が即位した今日ではあるが、これらの気持ちは、 伊勢神宮への畏敬の念は、日本人の誰しもがもっているのかも知れない 心のふるさと」なのだろう。時は、令和 地球温暖化防止のよう

はきっと知恵を絞ったことだろうが、日本語の幅広さと素晴らしさを再認識した。 今回の調査では、500ヶ寺弱の寺院名が挙がったけれど、 同名は全く無いと言えるほどだった。寺院の命名に

謝辞

貴重な資料を種々、提供いただきました郷土史研究家 飯田良樹様に深謝致します。

参考文献

宇治山田市史 復刻版 昭和47年 三宅書店

伊勢市史 平成24年 伊勢市

伊勢路見取絵図 第二巻 小俣·山田·宇治 東京美術 昭和61年

筆者紹介

に至った。 http://nfc.no.coocan.jp/index.htm でも公開している。 ント会社を起業、現在に至る。実家の掛軸を受け継いだことから、その調査を経て、伊勢の近代史を研究する 株式会社勤務し、レコード、ビデオデイスク、DVD、記録ディスクなどの開発に携わり、 は三重県図書館や伊 昭和23年伊勢市大世古町に生まれ、昭和47年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業後、日本ビクター 伊勢度会近世名軸図鑑、伊勢参宮近世名所図会、御師大研究などの自主製作本 図書館に収蔵されている。これら研究結果は、ホ 退職後、技術コンサルタ ムペー

伊勢のお

寺

発行 2019年11月吉日

著者 兼 発行者 秋 田

耕

司

〒259-1206 神奈川県平塚市真田3・10・18

メールアドレス: koji.akita@nifty.com

有限会社 NFC技 研

印

· 製 本